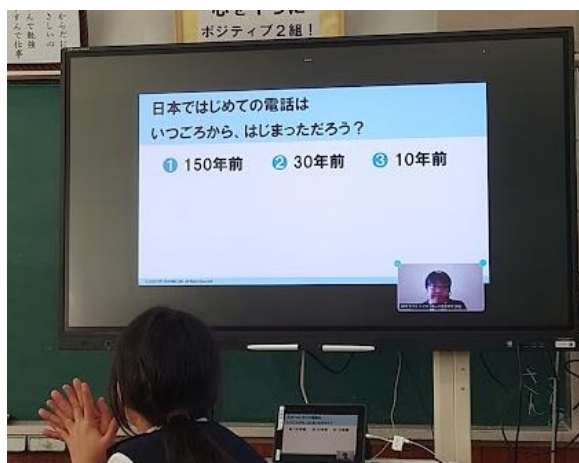


リーディングDXスクール事業【実践事例】

鹿児島市立田上小学校（鹿児島県）【指定校】

【取組内容】③ 地域人材や外部専門家の参画を得たオンライン授業

事例) 4年生 スマホ・ネット安全教室



オンラインで、外部専門家と連携を図り、情報端末の適切な利用について講義とワークショップを併用した情報モラルに関する学習を行った。その際、教育課程に記載されている情報活用の実践力と関連付けることができるように、専門家と事前に打ち合わせを行った。

中学年	先生と一緒に、もしくは自分で調べたいことを1人1台端末等(ソフキーボードの活用含む)を用いて調べ、課題解決のための情報を得ることができる。	文字入力(ローマ字入力など)などを用いて文字を書いたり、簡単な図や表で自分の思いを表現したりすることができる。	簡単なプレゼンテーションを作ったり説明することができる。	8	ローマ字入力等を用いて、簡単な文章を作成できる。			◎	
				9	簡単なシンキングツールを用いて、意見を分類・整理することができる。			◎	◎
				10	表作成アプリ(スプレッドシートなど)やアンケート機能を用いて、必要なデータを集めたり、データを入力し集計したりすることができる。			◎	◎
				11	自分の調べたい内容について検索エンジンにキーワードを入力し、必要な情報が集まるサイトに移動することができる。			◎	◎
				12	簡単な文字や画像が入ったプレゼンテーションをつくることができる。			◎	◎
				13	自分の方でオンライン会議システムに参加することができる(必要に応じてビデオ、音声のオン・オフの切り替えができる)。			◎	◎
				14	著作権や肖像権の意味や役割について知り、ルールやマナーを守って活用することができる。			◎	◎

外部専門家による学習を行うことで、情報モラルに関心をもって、主体的に学習に臨む子供の姿が見られた。学習後は、各教科等においてもルールやマナーを意識して、端末活用をする子供の姿が見られた。